

リメイク

愛媛大学総合健康センター 村上 和恵

まずは解説ぬきで写真をご覧ください。









さて、これらの写真の共通点は何だと思えますか？そう、「着物」なのです。最近アンティーク着物や帯から服や小物を作る，ということを知りました。もちろん「ボチボチ」しかできないのですが。複雑な裏をつけたりロックミシンを使ったり，という難しいことはできませんので，私はすべて手作業で行っています。年配のお友達は洋裁や和裁の経験がありますので，自分でデザインをしてバッグやクッションカバーを作っています。

でも着物は着物！やはり基本的には着るものですから，留学生たちに「無料で」「着て」「見て」「楽しんで」もらってもいます。ところでなぜ今になって着物か？と疑問に思われる方も多いのではないのでしょうか？

話せば長くなりますので手短に。たまたま行きつけのスーパーに立ち寄ったところ，日頃エイズ教育の企画やコンドームの提供でお世話になっている K さんが古着（失礼，これがアンティーク着物でした）を販売しているではありませんか。立ち話をしながら，彼女が大学近くに有志と共に衣類のリサイクルショップ（NPO）を始めたことなどを知りました。その後短期留学生が帰国する際に一度着物を見せたいと思い，店に連れて行ったところ，K さんが一番似合いそうな「商品」の着物を着せて記念写真を撮ってくれたのです。その時初めて，「着物って，少々襟元が合っていないなくても，トックリのセーターの上からでも，楽しんで着ることができればいいんだ～」と思ったのです。もちろんフォーマルな機会は別ですよ。それが最初の「羽織はかまの」写真と最後の「振袖」の写真です

ところで着物は「着る」もの。でも出番がなくなれば「リメイク」もあります。出番のない着物ほどかわいそうなものはありません。K さんの店では，行き先の決まった「娘（こ）」は，まる

でお嫁にだすように「いいところにもらわれてよかったね！」と喜んでいきます。

さて気に入った着物が手に入りました。次は何を作るか、です。これにはプロの手をお借りしましょう。本屋さんには、服やらバッグやら和装小物やら、驚くほどたくさんのデザインブックがありますのでかならず気に入ったデザインがあるものです。感心しながら立ち読みをしているとあっというまに1時間が過ぎてしまいます。ついでにニットや、お料理、刺繍などの本も見ることができますし、...本屋さんはいいいですねえ～！

ここで、本題に戻って、着物の生地は様々です。かたいものや柔らかいもの、色が出るもの、シルク、木綿、ウール、厚手、透けて見えるもの、などなど。私は本に載っている生地とほぼ同じものを使うようにしています。糸をほどくのもうまく早くなりました。リッパーという秘密兵器があるのです。着物は洗濯機でガランガラン洗って半乾きの状態でアイロンをかけると、まるでクリーニングに出したようにピ～ンとした生地に生まれ変わります。留袖のマフラーは、フォーマルドレスを作った余りで縫いました。最後の最後まで生地を上手に使ってやれば着物も本望ですね。

ふとした出会で始めた着物のリメイク。あらためて伝統的な着物の良さを感じるよい機会になりました。